

1. 略歴

1990年3月	北海道大学文学部文学科言語学専攻課程卒業
1990年4月	旭化成工業株式会社入社
1994年3月	明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程修了
1996年4月	東京大学文学部助手（附属常呂実習施設勤務）
2004年4月	北海道常呂町教育委員会社会教育課ところ遺跡の森主幹
2005年2月	博士（文学）学位取得 東京大学大学院人文社会系研究科
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

北東アジア考古学

b 研究課題

北海道を中心とした北東アジア地域の考古学的研究を専門とするが、特に近年は以下の2点を主要な課題として、北海道やロシア極東地域でフィールドワークを中心とした調査研究を行っている。

- (1)アイヌ文化成立過程の考古学的研究
- (2)日本列島とアジア大陸の「北回りの交流」に関する研究

c 概要と自己評価

上記研究課題について、2016年度～2017年度には以下の研究をおこなった。

1) 北見市大島遺跡群の発掘調査

北見市大島遺跡群は、擦文文化の竪穴住居等からなる集落遺跡である。アイヌ文化の直接の母体になったと考えられる擦文文化の終末過程や、擦文文化とオホーツク文化の関係について解明するため、北見市大島遺跡群（大島2遺跡・大島1遺跡）の発掘調査を実施した。この調査は2010年度から継続して実施しており、2013年度までに大島2遺跡で2軒の竪穴住居跡を完掘し、その年度分までの調査報告書を2015年度末に刊行している。2016年度から2017年度にかけては大島2遺跡で2軒、大島1遺跡で1軒の竪穴住居跡の発掘調査を行い、竪穴住居跡の構造や出土遺物、住居の廃絶儀礼、オホーツク文化との関連等について新知見を得た。また、大島1遺跡では2017年度から地形測量調査に着手し、竪穴住居跡の分布や集落構造に関する再検討を開始した。本遺跡群については、2018年度以降も調査を継続する予定である。

2) ロシア極東地域における共同調査

国立歴史民族博物館の共同研究「柳田國男収集考古資料の研究」に共同研究者として参加し、柳田國男が関係したロシア連邦サハリン州の先史時代遺跡を中心に、サハリンと北海道の先史文化交流に関する調査研究を行った。また、ロシア連邦ハバロフスク地方の遺跡探査に関する共同研究に参加し、同研究で行われた発掘調査に対して、資料の整理と分析に協力した。

3) オホーツク土器の型式編年に関する研究

斜里町チャシコツ岬上遺跡から出土したオホーツク土器・トビニタイ土器の分析をおこない、型式編年を検討した。また、市立函館博物館・北海道立北方民族博物館が所蔵するオホーツク文化の土器について分析をおこない、型式編年を検討した。後者の成果は2018年度に発表する予定である。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、設楽博己ほか編、『柳田國男と考古学 ―なぜ柳田は考古資料を収集したのか―』、新泉社、2016.5
- 共著、北海道立北方民族博物館編、『北海道立北方民族博物館第31回特別展図録 北からの文化の波』、一般財団法人北方文化振興協会、2016.7
- 共著、Kumaki, Toshiaki, 『Circum-Pacific Archaeology: In the Memory of Igor Yakovlevich Shevkomud』、The Pacific Publishing House “Rubezh”, Vladivostok, 2017.12

(2) 論文

- 熊木俊朗、「擦文文化竪穴住居跡の廃絶儀礼について」、『考古学ジャーナル』、No. 688、2016.9

熊木俊朗・福田正宏・國木田大、「鈴谷式土器とその年代—柳田國男の「樺太紀行」に寄せて—」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、第202集、2017.3

熊木俊朗、「チャシコツ岬上遺跡出土オホーツク土器・トビニタイ土器の編年試案」、『チャシコツ岬上遺跡総括報告書』、斜里町教育委員会、2018.3

(3) 学会発表

国内、熊木俊朗、「教育講演Ⅱ 古代の海洋民 オホーツク人とその文化」、第17回日本赤十字看護学会学術集会、日本赤十字北海道看護大学、2016.7.3

国内、夏木大吾・山田哲・中村雄紀・廣松滉一・吉留頌平・太田圭・佐藤宏之・増子義彬・佐藤宏之・熊木俊朗、「北海道北見市吉井沢遺跡の調査成果（第10次）」、第18回北アジア調査研究報告会、札幌学院大学、2017.2.19

国内、福田正宏・Gablirchuk, M.・國木田大・田尻義了・Shipovalov, A.・Gorshkov, M.・福永将大・夏木大吾・熊木俊朗、「アムール流域における考古学的調査報告（2016年度）」、第18回北アジア調査研究報告会、札幌学院大学、2017.2.19

国内、熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀、「2016年度北海道北見市大島2遺跡発掘調査報告」、第18回北アジア調査研究報告会、札幌学院大学、2017.2.19

国際、熊木俊朗、「紀元一千年紀前後におけるサハリンと北海道の先史文化交流」、第31回北方民族文化シンポジウム網走「環北太平洋地域の伝統と文化 1 サハリン」、網走市エコーセンター2000、2017.3.24

国内、熊木俊朗・夏木大吾・市川岳朗、「2017年度北海道北見市大島遺跡群発掘調査報告」、第19回北アジア調査研究報告会、東京大学、2018.3.11

国内、夏木大吾・太田圭・池山史華・舟木太郎・佐藤宏之・國木田大・熊木俊朗・廣松滉一・山田哲・中村雄紀、「北海道北見市吉井沢遺跡の調査成果（第11次）」、第19回北アジア調査研究報告会、東京大学、2018.3.11

(4) 展示

「常呂資料陳列館第5回企画展 続縄文文化と交流」、夏木大吾、2016.3.14～2016.5.13

「常呂資料陳列館第6回企画展 旧石器時代の狩猟採集民と細石刃技術」、夏木大吾、2016.11.7～2016.12.25

「常呂資料陳列館第7回企画展 動物を祀る —オホーツク文化の動物観—」、夏木大吾、2017.11.6～2017.12.25

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

北海道教育庁、「北海道東部の大規模竪穴住居跡群をめぐる研究の現状と課題」、2016.6

非常勤講師、北見工業大学、「オホーツクと環境」、2017.6

特別講演、湧別町教育委員会、「凹みで残る竪穴住居跡群遺跡 —北海道・サハリン・アムール下流域—」、2017.11

(2) 学会

国内、日本考古学協会、埋蔵文化財保護対策委員、2016.4～2018.3

国内、北海道考古学会、遺跡保護特別委員会委員、2016.4～2018.3

(3) 行政

自治体、北海道教育庁生涯学習推進局、教育政策、北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会構成員、2016.4～2018.3

自治体、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見、教育政策、施設運営協力委員会委員、2016.4～2018.3

自治体、北海道北見市教育委員会、教育政策、北見市常呂自治区社会教育推進会議 副委員長、2016.4～2018.3

自治体、北海道北見市教育委員会、教育政策、北見市文化財審議委員会委員、2016.4～2018.3

自治体、北海道北見市、教育政策、北見市史編集委員会委員、2016.4～2018.3

自治体、北海道斜里町教育委員会、教育政策、斜里町チャシコツ岬上遺跡調査検討委員、2016.4～2018.3

自治体、北海道北見市教育委員会、教育政策、北見市史跡整備委員会 副委員長、2016.12～2018.12